

ほり  
り  
ンイ  
前号のつづきです

## あなたが、できること

三学期、はじめの一歩

不登校の子の多くは「家に居るしかない」と決め付けていたり、「孤立している」と感じています。

私の仕事、福祉とは、孤立の解消と言う事に尽きると考えています。

孤立にはさまざまな原因があります。ずっと独りという人は無く、ある時から孤独を感じ始め、次第にこころを閉ざして孤立するのだと思います。

☆

課題解決に向けて心理的アプローチをするカウンセラーSCと違いSSWは、孤立の解消にどのような支援の輪が必要かという視点でアプローチして行きます。

初めからSCと連携した支援が一番ですが、多くの学校では、SCとSSWが一つのケースを支援することがありません。それでSSWも面談する必要があるのです。

★

「こころを開いてもらう方法」は、子どもにとって最高の支援者であるあなたにも、持って頂きたいスキルなので、繰り返しお伝えてしています。

『傾聴』『つなぎ』そして『見守り』がそれです。

まず、『傾聴』とは、子どもの気持ちを尊重しながら話を聞く姿勢を言います。こころを開いてもらうためには、この姿勢が必要です、その機会を持つことが不登校の一番の予防法だと言えます。67号の最後に書いた「気づいたことを伝える。話してくれるのを待つ」というの

がこれに当たります。

次に来る『つなぎ』についても、すでに何回か書いて来ました。あなた一人では抱えきれない子どもの悩みがあれば、早めに担任を通じてSCやSSWに相談して頂きたいのです。

聞いてあげた後、それを放置すると子どもは、前にもまして悩む事になってしまいます。

☆☆

先生や専門家に相談しても、すぐに解決することはあり得ません。

先日、遅刻の多いある子と、ひと月半ほど続けた面談に、お母さんと振り返りをしました。

先生たちは「改善している」と評価していますが、お母さんは「変わっていない。効果が期待できない面談は必要ない」と結論されました。この仕事12年で4件目の支援解任となり、自分の力不足に落胆しています。

一見、元気になったように見えても、子どもの課題が解決したわけではなく、繰り返し面談を続ける必要があります。そのため、子どもの孤立が完全に解消できたと思える所まで、長期間見守る必要があるのです。そしてそれが出来るのは、一番子どものそばに居る、家族という事になります。

それだけに、抱え込まずご相談ください。

